

出羽島(てばじま)の漁業史記念物 ～阿波沚(あわはえ)発見者功績の碑～ 徳島県・牟岐町



大正3年11月19日、海部郡牟岐町^{てばじま}出羽島山村組の大正丸(24トン)が、室戸岬から20海里の地点にカツオが良く釣れる魚沚(現在の土佐簗)を発見した。この発見により当時の出羽島は、豊漁で浜はカツオでいっぱいになり、鯉節の工場ができるほど活気にあふれた。この魚沚には、発見後広く、高知、和歌山、三重、静岡の各県からつめかけ、日本におけるカツオ一本釣りの好漁場となっている。昭和8年に出羽島の人々及び徳島県遠洋出漁団組合は、発見者山村雪太郎の功績を称え、感謝の心を込めて、出羽島港口の正面に山村雪太郎君功績の碑を建設した。

TOPICS

・特産品：アオリイカ、イセエビ、トコブシ、テングサ、ウツボの干物

お問い合わせ先

牟岐町役場産業建設課

TEL / 0884-72-3419

【交通】

徒歩 / JR牟岐駅から約10分

船 / 牟岐港から出羽島連絡船「大生丸」で約15分

徒歩 / 出羽島港から約5分

